

朝鮮半島有事の蹙聞こゆ。北朝鮮による度重なる核実験及弾道弾試射を巡り、米國內にて對北朝鮮先制攻撃論高まるも、北朝鮮怯まずして依然對抗姿勢崩さざるが故なり。其の様相、二十三年前の第一次朝鮮半島核危機を髣髴せしむ。當時の米國クリントン政権、北朝鮮の核施設二箇所^{ソウル}の爆撃を検討す。米韓軍民擔當者等に對北朝鮮武力攻撃の人的、軍事的、經濟的、政治的危険及損失等に就き諮る。假に北朝鮮の核施設を成功裏に破壊せんとも、非武装地帯及京城の間に駐留せる米陸軍第二步兵師團及京城の一部、非武装地帯北方に在る北朝鮮の火炮數千門の犠牲となるは不可避なるべし。其の政治的、經濟的、外交的歸結の深刻なるや、時の米政府をして遂に武力行使を斷念し再び外交的解決の模索へと向かはしむ。

今や北朝鮮は五回の核実験を経、かつ米國本土へ到達可能なる大陸間弾道弾發射準備最終段階にあり、愈々自信を深む。而も、少なくとも二名の米國民を事實上人質として拘束中と云々。米國の軍事技術及對北朝鮮攻略の策、此の二十三年の間に大幅に改善せりと雖も、北朝鮮の方とて、各種火炮及彈道彈技術のみならず電腦戦力、化學兵器技術、特殊作戰能力に於て顯著なる向上あるべし。更に、中共人民解放軍による介入、露西亞の動向等、多様な不確實性あり。斯かる不確實性への對應、内政に忙殺せられたる米國現政権にとり極めて厄介なり。又、韓國に於ては朴大統領^{パク}彈劾により失職し、實質的政治的空白の中、五月豫定の大統領選舉既に緒に著きたり。政治的指導力無に等しと雖も、幸ひ、現在進行中の米韓合同軍事演習により抑止力は辛うじて維持せらる。

他方、我國に就きては、國權の最高機關たる國會に於ける議題は所謂森友問題を専らにす。北朝鮮が再び豫告なく探知困難なる擴張型短距離又は中距離彈道彈複數を同時かつ同一地點に對して發射し、其れ等が日本近海にて操業中の漁船又は同近海上空を飛行中の民間航空機を巻き込む事態とならば、其の歸結たるや我國の政治的指導者等に重大なる決斷を迫るは必定なり。既存の彈道彈防衛體系の不完全なる中、最早、核兵器を搭載せざる單なる彈道彈のみにて、我國を斯様に脅かすに十分なり。

思ふに、米朝間の對峙が第二次朝鮮戦争となるや、第一次朝鮮半島核危機の再來となるや、將又平時有事の境曖昧なる緊張状態續くやは、畢竟、米國現政権の胸一つと云ふべし。我國にとりて幸ひなるは、米國の對日同盟重視姿勢なり。我國としては、斯かる姿勢を維持すべく外交關係の更なる緊密化を圖ると共に、國內に於る他國による特殊作戰への對策を始めとし打撃力保有に至る迄、國防能力全體を速やかに強化するに如くはなし。

(平成二十九年三月二十七日受附)

